

【雑学】町田を歩く 3. (三輪・岡上を巡る)

「町田を歩く」の第一回は町田の中心街・原町田、第二回は近藤勇（新撰組）とも交流のあった小野路の里であった。第三回は奈良の三輪より移住した人たちが開いたという三輪・岡上を巡ることとする。小田急線鶴川駅の南を鶴見川が流れている。鶴見川の南が川崎市麻生区岡上である。岡上と町田市三輪は隣接し散策の道としては県境を跨いで東京都と神奈川県を入ったり出たりする場所にある。

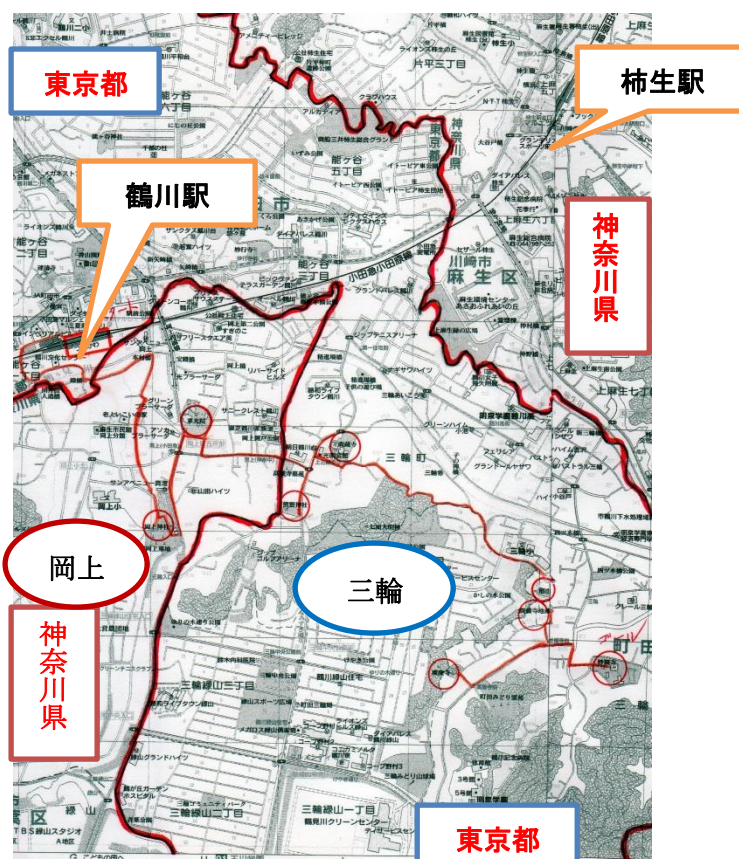
《岡上》

北方を鶴見川が流れ、東京都町田市と横浜市青葉区に囲まれる川崎市麻生区の飛び地である。岡上村は武蔵国都筑郡に属していたが、江戸期には多摩郡に属していたこともある。1889（明治 22）年施行の町村制でも他の村と合併しないで単独の村を維持していた（柿生村組合には属していた）。従来からの柿生村との交流を重視し、1939（昭和 14）年に柿生村と共に川崎市と合併して大字となる。岡上村と柿生村の間には三輪村があり、三輪村は東京府南多摩郡鶴川村三輪となったため、鶴川村と横浜市に囲まれた飛び地となった。平成 25 年現在、面積 1.45 ㎡、人口は 6700 人ほどとなっている。通勤としては小田急線鶴川駅が便利である。

《三輪》

北方を真光寺川・鶴見川が流れ、地内で合流している。東・西・南の三方向は神奈川県に隣接している。北方向は小田急線を挟んで町田市能ヶ谷五丁目に接している。接している距離は袋を縛った口のように、わずか 300～350mほどであり、ぐいと神奈川県に食い込んでいる地区である。古くは大和国（奈良県）城上郡三輪から移住開発したゆえにその名称があると伝えられている（周辺には香山・奈良などの地名が残っている）。江戸時代は基本的に三輪村一村だが、谷戸が多いこともあって、上・下にわかれ、独立性が強かった。1889（明治 22）年鶴川村の大字、1958（昭和 33）年の町田市制施行により、町田市三輪町となる。その後、三輪町の南部は野村不動産による大規模な宅地開発と区画整理が行われ三輪緑山 1 丁目～5 丁目となった。平成 27 年現在人口は 6600 人ほどで岡上と匹敵している。通勤としては南地区が鶴川駅、北地区はやや柿生駅が便利なようだ。行政上・三輪は東京都だが電話は川崎局(044)となり、鶴川駅前より発信するときは市外通話となる場所にある。

《コース》 鶴川駅（スタート）⇒①岡上神社⇒②東光院⇒③熊野神社⇒④高蔵寺⇒⑤榎山神社⇒⑥地藏堂⇒⑦廣慶寺⇒⑧妙福寺（ゴール）⇒バスにて鶴川駅に戻る。



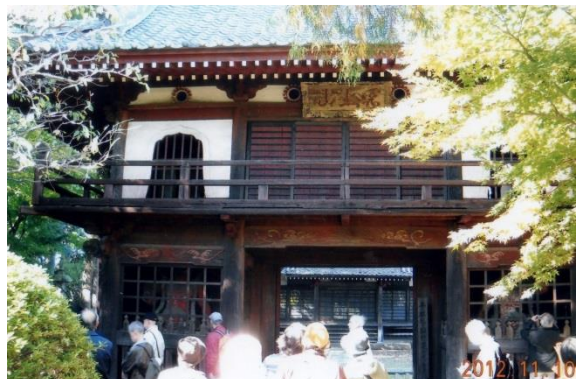
鶴川駅西側の踏切を渡ると、すぐ鶴見川に達する。岡上跨線橋を仰ぎ見ながら川沿いに歩く。鶴見川を渡り、裏道の登り坂を行くと岡上神社の裏手に出る。

①岡上神社 川崎市麻生区岡上 809

祭神は日本武尊。1909（明治 42）年 3 月、岡上村中にあった五つの神社（諏訪神社、劍神社、日枝神社、宝殿稲荷神社、開戸神社）が合祀された。場所は岡上村の中心、諏訪神社の跡に村の名前を取って岡上神社とした。社殿には日露戦争の際の奉納額がかかっている。

②東光院（岡上山東光院宝積寺）川崎市麻生区岡上 217

真言宗系の単立寺院。鎌倉道に向かい東向きに建てられ、それが寺名の起りとなっている。仁王門は重層で門内左右に仁王像、その背面に六地藏、階上には阿弥陀三尊を中心に十王が安置されている。本尊は大日如来像。行基菩薩が関東下向の折り、鶴見川の川岸で光るものを見て、そこを掘らせると毘沙門様が出てきた。草庵を建て毘沙門様を祀ったのが寺の始まりと伝えられている。江戸時代につくられた『新編武蔵風土記稿』には「開山開基は詳らかとせずといえど、天正の頃（1573～1592）までに十一代に及ぶ」と記されている。重層の仁王門には門内左右に仁王像、その背面には六地藏が三対ずつある。



東光院の山門（仁王像が控えている）



東光院の本堂

境内の前を走る鎌倉道はハヤの道（鎌倉まで早駆して行ける道）として知られている。もと東光院境内にあった蚕影山祠堂（こかげさんしどう）は現在川崎市立日本民家園（川崎市多摩区生田緑地内）に移設されている。移設されたのは養蚕の神「蚕影山大権現」を祭った宮殿とその覆堂からなっている。これらは川崎市重要歴史記念物に指定されている。東光院境内には元ここに蚕影山祠堂ありきの石標「蚕影山跡」が建てられているのみである。岡上村は平地が少ないため水田も少なく畑地が多い。江戸時代末期の横浜開港以来、外国向け輸出品は絹糸や繭種が多く、都筑郡や南多摩郡全般に言えることではあるが、ここ岡上も横浜に近いことから情報も早く入り、畑地を桑畑に転換、養蚕に励んだことが偲ばれる。東光院より熊野神社に向うと県境を越えて神奈川県から東京都に入る。

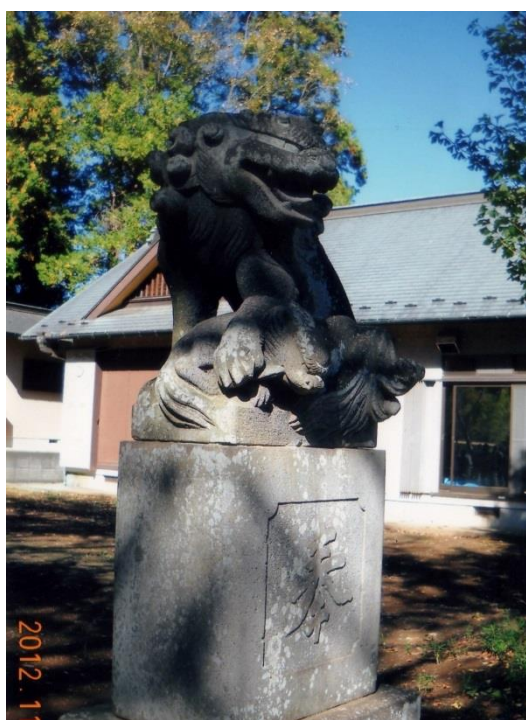


③熊野神社 町田市三輪町 1925

上三輪の産土神。元慶元（877）年、奈良の三輪山に似ていることからこの地に熊野神社を勧請したとの伝承がある。「明和四（1767）年十月」の神幣の台座に「別当高蔵寺住法印亮怡」とある。祭神は伊邪那岐（いざなぎ）伊邪那美命（いざなみのみこと）で覆屋内の本殿（江戸中期建立）は町田市指定文化財になっている。ここ熊野神社の境内にも蚕繭供養（繭の字は虫偏であるが）の石碑があり、岡上だけではなく三輪地区でも養蚕が盛んで有ったと思われる。



蚕繭供養の石碑（三輪養蚕組合建）



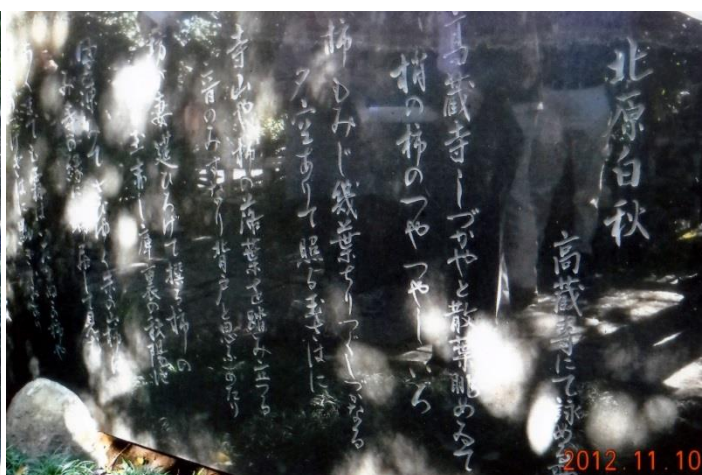
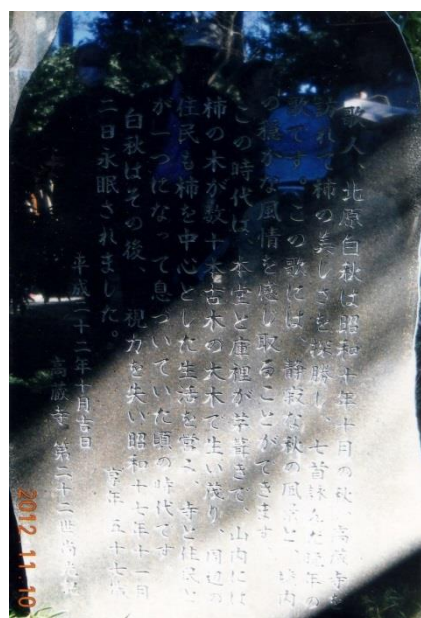
本殿に向って右の狛犬

左の狛犬（奉）は町田の鶴川（野津田）出身の自由民権活動家として知られている村野常右衛門が寄進したことが台座に刻まれている。村野常右衛門は青年時代、野津田に文武道場「凌霜館（現在の町田市立自由民権資料館敷地）」を創設し若者に剣術や民権学習の場を提供した。後年政治や実業の世界に入り原敬内閣の立憲政友会の幹事長も歴任している。また横浜倉庫専務取締役、自由通信社社長、満州日日新聞社社長などを歴任した。また信州や甲州の荷物（主に絹製品）を短距離で横

浜に運ぶため、横浜鉄道会社、横浜・八王子間（現在のJR横浜線）の開設・施設に尽力したとも伝えられている。

④高蔵寺 町田市三輪町 1609

寺の入口には「弘明会館」という葬儀等に使用する立派な建物がある。真言宗富山派。開山・開基等は不明。宝永7（1710）年に火災にあい、古記録・古器などいっさいを焼失した。昭和10（1935）年北原白秋が来訪し「高蔵寺づかやと敬葉眺めりて指の柿のつやつやいろ」など7首の作品を残している。現在は境内で七福神巡りが出来るようになっており、石楠花と季節の花々に囲まれた寺院である。多摩四国八十八ヶ所の第十番札所、また東国花の寺百ヶ寺の東京第5番札所として、多くの参拝客が訪れている。



高蔵寺にて詠める北原白秋の 7 首の詩を刻んだ石碑と由来の石碑。

⑤ **梶山神社** 町田市三輪町 1618



下三輪の産土神。元慶元（877）年、奈良の三輪山に似ていることからこの地に勧誘したとの伝承がある。祭神は日本武尊・大物主命。この近辺には杉山神社が多いが、「梶」の字を使っているのはこの社だけである。

⑥ **地藏堂** 町田市三輪町 1556

地藏堂は昔、高蔵寺の末寺、正善寺といい、1733 年（享保 18 年）に旗本村上左衛門によって開山された。本尊地藏菩薩は三輪村の人々に深く信仰されていたが、明治元（1868）年、正善寺が廃寺になるため、人々の願いを聞き入れ、高蔵寺に合寺され高蔵寺地藏堂と名を改めた。昭和 51（1976）年に新堂を建立し、地藏を信仰する地藏堂「鶴川地藏尊」として、地域の人々に親しまれている。

⑦廣慶寺 町田市三輪町 1609

曹洞宗。三輪山廣慶寺という。元龜3(1572)年に開かれ、釈迦を本尊とする。元々は現在の墓地に本堂があったが焼失したため、安政4(1857)年に移転された。また明治初年に廃寺となった小野路村の清浄院福田寺の本尊、薬師像も安置されている。「平成の鐘」や五百羅漢、十二支の石像、仙台四郎などが参道に並んでいる。



⑧妙福寺 町田市三輪町 811



妙福寺の祖師堂



妙福寺の本堂

日蓮宗長祐山妙福寺。もと鎌倉妙本寺の末寺。明応2(1493)年開山。祖師堂は寛文12年、池上本門寺より祖師像・宮殿と共にいただいた。祖師堂は東京都指定文化財。本堂・鐘楼門・高麗門(総門)は町田市指定文化財となっている。

以上で散策は終了して、鶴川女子短期大学より折り返してくる鶴川駅行きのバスを待つ。